

ご存知ですか、萩の医療の現状を

これまで、萩の医療の現状と中核病院の必要性についてお知らせしてきました。今回は、現在検討を行っている中核病院づくりや市民病院と都志見病院との統合について、Q&A形式でご説明します。

Q 市で検討している、中核病院とはどのような病院ですか？

A 中核病院は、地域の医療機関と連携し、地域医療の拠点としての役割を担う病院です。複数の診療科や高度な医療機器を備え、かかりつけ医で行うことが難しい専門的な検査や医療（大学病院などが行う高度医療は除く）を行います。

Q 今、なぜ中核病院をつくるのですか？

A 医療従事者の不足と高齢化が進む萩医療圏において、このままでは、救急など、今の医療体制が保てなくなります。医療従事者を確保するためには、症例の数が多く、指導体制が整っている、地域の核となる拠点病院が必要となります。

また、市民病院などの急性期医療を担う病院は中・小規模で、専門的な医療が分散しています。地域の中核を担う病院を新たにつくることで、他の病院との機能の分化・連携を図り、市民が安心して暮らせる医療体制づくりを目指しています。

Q なぜ統合を検討するのですか？

A 医療従事者が不足している萩医療圏では、市民病院だけで中核病院をつくることは困難です。都志見病院と統合することで、医療従事者を集約し、チーム医療の充実が図れるほか、1病院あたりの症例の数も増やすことができ、医療従事者を受け入れやすい環境が整ってきます。

また、両病院の機能を集めることで、診療科目など

の医療サービスが充実し、萩医療圏で不足している回復期機能の確保などにつながることを期待されます。

Q 2つの病院が一緒になると聞きましたが、どちらの病院に行ったらいいのですか？今の市民病院や都志見病院がなくなるのですか？

A 2つの病院のどちらかが、今すぐになくなる訳ではありません。今まで通りかかりつけ医などの医療機関で受診してください。

将来的に、市民病院と都志見病院とが経営統合し、新たな病院として運営することを目指して検討を進めています。今後、2つの病院の施設をどのように活用し、診療の窓口をどこに設けるかなどについては、検討委員会での議論を踏まえ、決定します。

Q 中核病院では、患者負担は増加するのですか？

A 医療費については、国が診療報酬や患者負担割合を定めているため、患者さんの負担が変わることはありません。有料個室の使用料など医療保険が適用されない部分については、適正に設定していきます。

中核病院づくりについては、検討委員会において協議していきます。

第2回中核病院形成検討委員会

日 7月7日(火) 14:00～16:00

場 総合福祉センター多目的ホール

問 中核病院形成推進室 ☎ 21-3120



中核病院なんでもトーク

地域や団体の集まりなどで、中核病院づくりについて説明し、意見を伺う「中核病院なんでもトーク」を行います。

「今、なぜ中核病院が必要なのか」、「萩医療圏の現状はどうなのか」など、「説明を聞きたい!」「意見を伝えたい!」とのご要望がありましたら、中核病院形成推進室までお申し込みください。

イージス・アショアへの対応 問 総務課 25-3439

6月15日、防衛省から、イージス・アショアの配備に関するプロセスの停止が発表されました。

また、6月19日、河野防衛大臣が、山口県庁を訪問され、今回のプロセスの停止に関する説明と謝罪がありました。

停止の理由として、ブースターをむつみ演習場内に落下させるには、相当のコストと期間を要するこ

とが判明したことが挙げられています。

市長から、ブースターを確実に安全に落下させることができない以上、むつみ演習場への配備は不適であることを伝えるとともに、防衛省に、市民への丁寧な説明を求めました。また、市議会議長からも市民や市議会への詳細な説明を求めました。